

百人一首と私 2025 年 11 月 布施新町 4 丁目 小林 敬子

私が「百人一首かるた」と出会いましたのは小学校入学前のことでした
当時、東京に住んでおりました
毎年お正月には従兄弟たちが我が家に集まり母を読み手としてかるた取りをいたしました
「源平での札取り」や「坊主めくり」など沢山の楽しい思い出があります
幼い頃一番初めに覚えたのは白菊のお歌でした

心あてに
折らばや
初霜の
置きまど
白菊の花
はせる



百人一首二十九
凡河内躬恒

学生時代には「式子内親王」に憧れて、藤原定家との悲恋に想いを寄せたりいたしました

玉の緒よ
絶えなば
絶えね
ながらば
忍ぶること
の
よわりも
ぞする



百人一首八十九
式子内親王

過日「ちはやふる」という漫画が人気とのことを知り、幼い日のかるた取りを懐かしく思い出しておりました



「百人一首」から遠ざかりまして半世紀以上が過ぎ、「かるた」などには縁のないものと諦めておりましたところ、「布施新町みらい寄席」に参加いたしました折に『布施新町みらいプロジェクト』に「小倉百人一首の会」があることを知りました

幼い頃に親しんだだけの者が通用するか不安でしたが意を決して参加いたしました



百人一首の会 札取り練習

担当の方の平安文化紹介や源氏物語のビデオ解説も詳しく楽しく、なによりも
札取りが懐かしく楽しく・・・

忘れていたお歌なども回を重ねるごとに思い出されます

かるたを詠みあげる音の響きも愉しく聞こえ、悠久の世界や景色に想いを馳せます

私にとりまして「百人一首」は脳トレ・脳活になります

できれば多くの方々、男性の方々にも参加して頂きたいと思います

少しずつ、一首ずつ覚えて「脳」から若返りましょう

注：以前、ホームページ「茶房つぼみ」を開設して万葉集や百人一首を載せておりました

今回使用したイラストはその当時に描いた百人一首の絵です

百人一首から様々なイメージが浮かび、夢中で描いていたところが懐かしいです